

「釧路湿原自然再生協議会」

第 6 回 水 循 環 小 委 員 会

資 料

平成19年2月8日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会

－ 第 6 回 「水循環小委員会」 －

日時：平成 19 年 2 月 8 日（木） 13：30～16：00

場所：釧路市交流プラザさいわい 3 階 大ホール

議 事 次 第

1. 開 会
2. 第 3 期水循環小委員会の委員長および委員長代理の選出
3. 議 事
 - 1) 水循環小委員会での検討の目的
 - 2) これまでの調査・検討成果の概要
 - 3) 現状の課題と平成 18 年度の調査・検討内容
 - 4) 平成 19 年度以降の調査・検討予定
4. その他
5. 閉 会

釧路湿原自然再生協議会
水循環小委員会 委員名簿

計：47名

■個人(23名)

(敬称略、五十音順)

No	氏 名	所 属
1	井上 京	北海道大学大学院 農学研究院 助教授
2	石川 孝織	釧路市立博物館
3	梅田 安治	農村空間研究所 所長、北海道大学名誉教授
4	大山 仁美	環境カウンセラー(事業者部門)
5	岡田 操	
6	桂川 雅信	北海道教育大学札幌校 非常勤講師 環境カウンセラー(市民部門)
7	亀山 哲	国立環境研究所 流域圏環境管理研究プロジェクト 主任研究員
8	木村 勲	
9	桜井 一隆	
10	関尾 憲司	環境カウンセラー
11	橘 治国	北海道大学大学院 工学研究科 助教授 環境フィールド工学専攻
12	藤間 聡	室蘭工業大学 工学部 教授
13	仲川 泰則	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション 北管理部
14	中津川 誠	国土交通省中部地方整備局 豊橋河川事務所 所長
15	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
16	西内 吾朗	
17	三上 英敏	北海道環境科学研究センター 環境科学部
18	水垣 滋	筑波大学大学院 生命環境科学研究科 生命共存科学専攻 環境創生モデリング分野
19	宮尾 素子	
20	百瀬 邦和	タンチョウ保護調査連合
21	矢崎 友嗣	北海道大学大学院農学研究院 農業物理学分野
22	山内 昴	環境カウンセラー(事業者部門)
23	若菜 勇	阿寒湖畔エコミュージアムセンター マリモ研究室

■団体(13名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	カムイ・エンジニアリング株式会社	代表取締役 大越 武彦
2	釧路カヌー連絡協議会	会長 岩淵 鉄男
3	釧路川水質保全協議会	会長 藪田 守 (釧路市公営企業管理者)
4	釧路自然保護協会	会長 高山 末吉
5	釧路湿原塾	運営委員長 栗林 延次
6	国際ソロプチミスト釧路	理事 浪岡 敬子
7	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
8	タンチョウ保護調査連合	代表 正富 宏之
9	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
10	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 金子 正美
11	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒沢 信道
12	北海道標茶高等学校	校長 小川 龍幸
13	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤

■オブザーバー(4団体)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
2	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 植田 晃雄
3	阿寒農業協同組合	代表理事組合長 小瀬 泰
4	標茶町商工会	会長 栗田 和行

■関係行政機関(7機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 松浦 壽彦
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 渋谷 晃太郎
3	北海道 釧路支庁	支庁長 伊藤 芳和
4	釧路市	市長 伊東 良孝
5	釧路町	町長 佐藤 廣高
6	標茶町	町長 池田 裕二
7	鶴居村	村長 日野浦 正志

※第3期新規構成員

第5回水循環小委員会の発言概要と検討方針（案）

項目	発言概要	検討方針（案）	備考
湿原内の水循環について 河川水位と地下水位の関係、	湿原内の河川と地下水位の関係が重要である。特に湿原の場合、表面の水移動は非常に大事な情報である。是非、湿原内の河川の水位観測を行ってもらいたい。	釧路川では河川水位の観測も行っている。また、湿原内の地下水位観測結果の中には河川水位と高い相関を示すものもある。施設の新設については、既往の観測結果を分析し、その結果を踏まえて検討していく。	
	自然河川だけでなく、右岸堤の堤内排水路の水位なども測定した方がいいと思う。この堤防が湿原内の水循環にどのような影響を与えているか把握する必要があると思う。	遊水地右岸堤の堤内排水路近傍には水位計が設置されている。この観測結果を踏まえ、湿原内の地下水位分布や地下水流動を検討していく。	
被圧地下水について	- 被圧地下水が釧路湿原にどのように寄与しているのか教えてほしい。 - 被圧地下水の年間のボリュームと熱量などのデータも蓄積しておく必要があると思う。	地下水位観測結果から、地下水の「被圧」「不圧」の分類、降雨に対する地下水位の反応などについて分析を行っている。詳細な検討に着手したところであり、被圧地下水の寄与や熱量については、段階を踏んで検討していく。	
幌呂地区（湿原再生）について	幌呂地区については、農地開発が行われ、放棄されてからの変化を把握することで、人間がどこまで関与し、どこまで自然の復元力に委ねるか検討する際のいいデータが取れると思う。	- 幌呂地区については、農地開発の歴史や河道の変遷などを整理している。これまでに整理したものを小委員会資料の参考資料に示す。ただし、水位や地盤高などの変化は把握されていない。 - 幌呂地区については、測量などの基礎調査を開始したところで情報量が少ないが、効率的に調査を進め、検討していく。	

第6回 水循環小委員会

資 料 目 次

	頁
1. 水循環小委員会の検討の目的……………	1
1-1. 水・物質循環系の保全のために達成すべき目標……………	1
1-2. 目標達成のための実施内容……………	2
1-3. 地下水数値シミュレーションの概要……………	2
1-4. 負荷抑制のための施策……………	3
2. これまでの調査・検討成果の概要……………	4
2-1. 釧路湿原の水理地質について……………	4
2-2. 釧路湿原の地下水位について……………	10
3. 現状の課題と平成18 年度の調査・検討内容……………	12
3-1. 釧路湿原の水理地質に関する調査・検討内容……………	12
3-2. 釧路湿原の地下水位に関する調査・検討内容……………	14
4. 平成19 年度以降の調査・検討予定……………	18
参考資料……………	資料-1